

委員会視察成果報告書

令和5年10月10日

犬山市議会議長

議員名 大沢 秀教

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和5年10月3日(火) ~ 5年10月4日(水) (1泊2日)
(2) 視察地	静岡県熱海市、東京都隅田川
(3) 視察の種類	常任・特別委員会 (建設経済委員会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	10月3日、10月4日。 それぞれについて、別紙にて報告します。
(5) 犬山市に 対する提言	別紙にて報告します。



視察成果報告書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和5年10月3日（火）

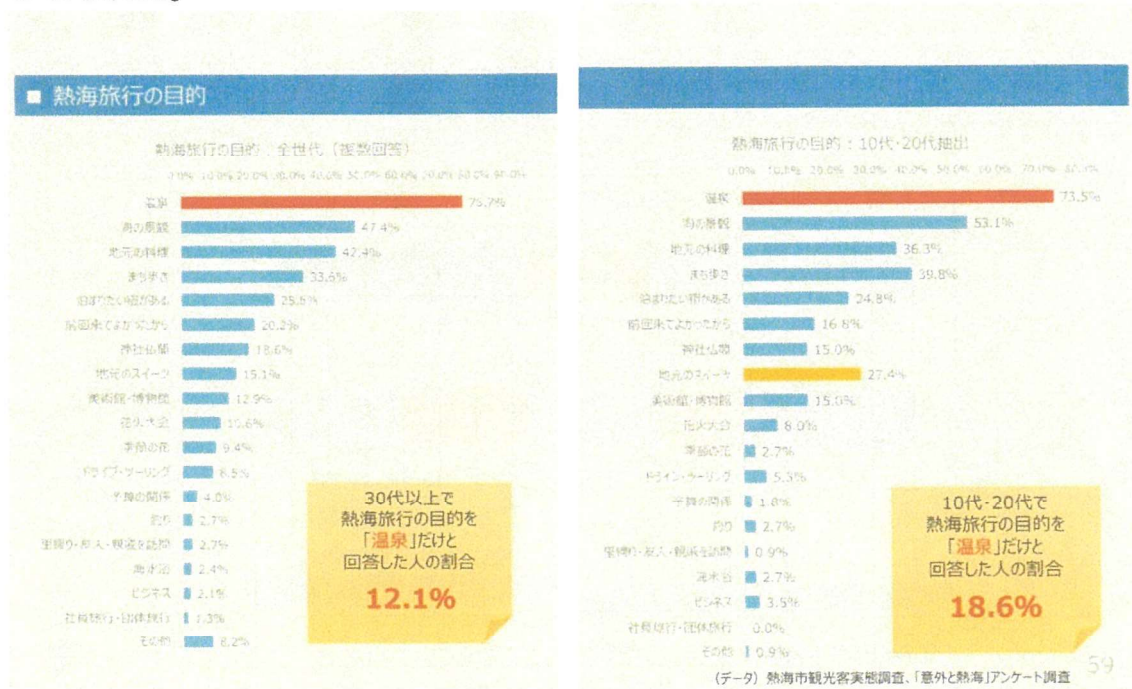
訪問先：静岡県熱海市

形態：常任委員会（建設経済委員会）

調査項目：「熱海観光の現状について」 観光客がV字回復するに至った取組について

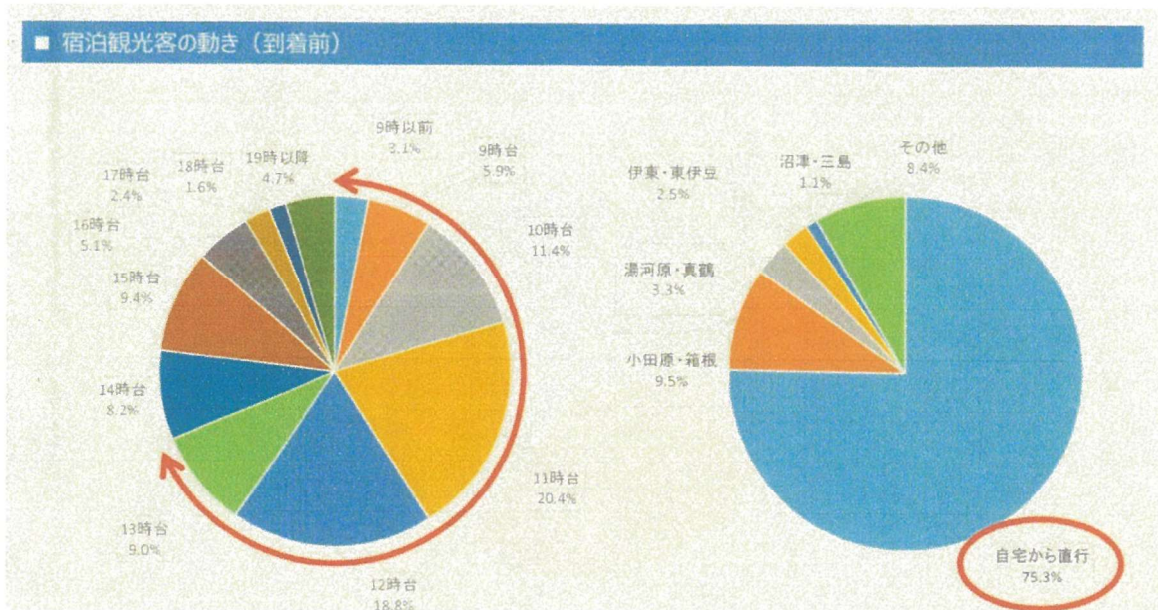
調査の内容

今回の熱海市視察は、熱海市議会庁舎内での座学であったが、現地に到着して昼食をとった後であったので、駅前の活気を肌で感じた感覚的な気づきが多くあった。観光に関するテーマの研究であるので、やはり現地視察の重要性を再認識させられた。



熱海と言えば温泉、金色夜叉、新婚旅行発祥の地、団体旅行の目的地 No.1 というのは、今は昔の話だ。もちろん最大の魅力が温泉であることは間違いないが、他にも魅力を付加して、日帰りではなく、宿泊・滞在指定ただあくことによる経済効果と呼び込む努力が行われている。熱海市の産業構造は宿泊・飲食サービス業が他業種と比べて突出して多く、まさに観光が“市の要”である。2021年5月策定の観光基本計画では、「多様な地域の資源・価値に立脚し、時代・価値観の変化に柔軟に対応する満足度の高い滞在空間の提供」を基本理念としている。

計画推進における柱として、「市内回遊性の向上と伊豆箱根エリアにおける観光ハブ拠点化による新たな来遊客の創出」を掲げている。



今回の視察においても、我々犬山市議会に対して、惜しげもなく膨大なデータの資料を提供していただいた。その一部を報告書に添付しているが、とにかくあらゆる角度からの分析と考察が行われており、観光事業の落ち込みから財政危機であった時期の市の危機感は想像するに難くない。

視察研修時にいただいた説明から内容をまとめるのが難しいほど多岐に及んだ内容であった。「民主導のまちづくり」「篤志家の支援」「市観光経済課の取組」これらが融合して生み出される観光まちづくりのパワーによって、どん底からのV字回復があり、その後のコロナ禍による危機からもまた脱出しようとしている。

犬山市への提言

熱海市の取組として資料に基づいて提示いただいた様々な例は、犬山市の観光が回復してきたここ10年ほどの状況と重なる部分が多いと感じた。ただ、その規模の大きさは比べるまでもなく、何より観光が宿泊に結びついている点が犬山の観光との大きな違いだと感じた。また、これまでもこれからも、熱海の観光を支えているのは首都圏および関東地方からの観光客である。人口規模が大きいこと、また新幹線停車駅であることをはじめとする交通利便性において、我が市としてはうらやましい条件がそろっている。

一方、熱海市は観光業が好調なのとは裏腹に、人工減少や極端な少子高齢化問題などは深刻で、今後、観光のための財源を如何に確保していくかも課題であった。そこで、観光目的税（宿泊税）の導入を検討している。本市においても、観光振興に充てられる予算は今後増やせるとは考えにくいいため、財源確保のための取組も重要となる。

■ 熱海旅行の目的（地元のスイーツ）



熱海アリン【2017.07】



熱海スクエアシュークリーム【2019.02】



Merienda【2020.03】



熱海ミルチーズ【2021.03】



ジェラテリア La DOPPIETTA【2017.08】



いちごBonBonBerry熱海ハウス【2019.04】



熱海フルーツキング【2020.03】



和菓菓子kiito-生糸-【2021.03】

2017

2019

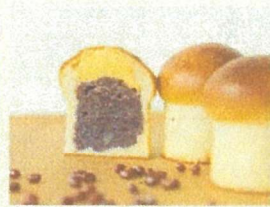
2020

2021

■ 熱海旅行の目的（地元のスイーツ）



熱海 JewelCandy【2021.07】



又一庵謹製熱海ぱーあん【2021.08】



いちごラザ大福や 熱海店【2022.04】



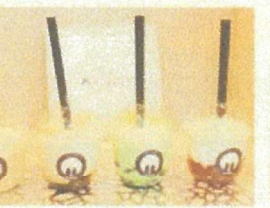
甘味処鎌倉 熱海温泉店【2023.07】



オーガニック ボックス【2021.08】



Gelateria aipinoli【2021.10】



のむわらび餅 usagiya【2022.08】



熱海青葉舎【2023.07】

2021

2022

2023

熱海市においては、ロケーションの支援や SNS などへの広がりなどで、写真映えするスイーツなども前面に売り出して、集客に大きな役割を果たしている。これについては犬山市でも同様であるが、こうした集客が他の魅力と融合して、温泉への宿泊に結びつく熱海市とは違い、写真だけ撮って、散歩して帰ってしまう犬山の観光とでは、経済効果が全く違う。今後も城下町（本町）だけのストリート観光では、それほどの広がりもなく、店舗が入れ替わっていただけだろうと想像する。

城下町につながる新しい観光動線や、新しい魅力のコンテンツをセットにした観光商品などの開発が必要だろうと考える。

また、宿泊につながる夜の食事の充実や、ライブハウスなどの夜の楽しみが根付いていけば、大人の犬山ファンに支えられる本物の観光地になっていくのだろうと思う。首都圏の熱海ファンに熱海の観光が支えられているように。

視察成果報告書

犬山市議会 議長 柴田 浩行 様

犬山市議会議員 大沢秀教

下記のとおり、視察調査の成果を報告いたします。

調査日時：令和5年10月4日（水）

訪問先：東京都 隅田川テラス～両国リバーセンター（墨田区～台東区）

形態：常任委員会（建設経済委員会）

調査項目：「隅田川テラス事業について」

調査の内容

視察調査にあたっては、東京都建設局河川部計画課の職員3名が説明員として詳細な説明をしてくださった。河川管理者でもあり事業主体でもある都の役人が話される内容は、当方の質問についても明確に示され、有意義であった。

東京を代表する河川である隅田川が、東京の低い土地での水害を何度も引き起こした過去の教訓から、高潮対策事業（1963～）として直立の堤防が整備された。

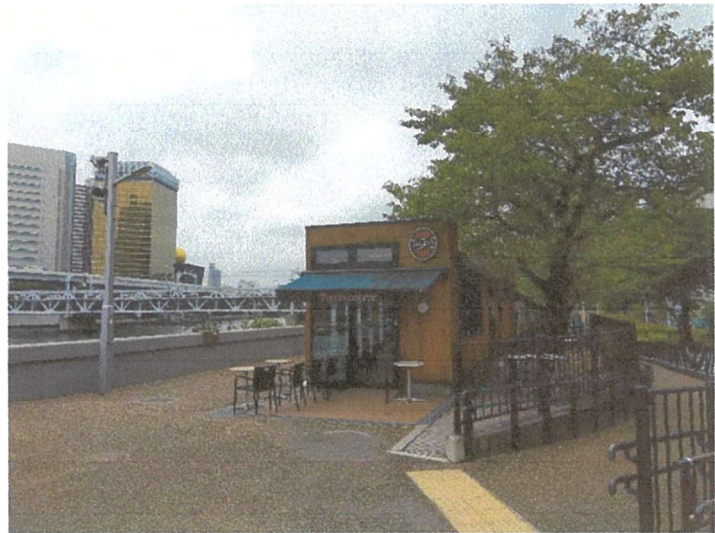
直立の堤防により人の暮らしと川が分断されてしまったことから、親水性と耐震性の向上のため、背後の開発等に合わせてゆるい傾斜の整備（1985～）が行われるようになった。「水辺の魅力を活かした東京の顔づくり」の名の下に行われた取り組みが現在にまで続いており、「隅田川サポーター」という人たちの活動にもつながっている。

その中でも、今回の視察説明を受けた場所に立つ「両国リバーセンター」は、公共用地を定期借地で官民連携事業で展開している。（現地視察）

また、護岸の補強整備に合わせて歩行空間となるテラスを整備した「すみだリバーウォーク」は、都・区・鉄道会社による官民連携事業で、市民にとっても愛され、活用されている現場を視察することができた。（現地視察）

他にも、京都の加茂川の「川床」を思わせる取組＝河川堤防の敷地に設置させ、利活用する「かわてらす」は、規制緩和によるもので、興味深い。





河川堤防の上の遊歩道からは隅田川が身近に感じられ、川が生活の近くにある潤いを感じる効果がある。こういう整備を「親水空間の整備」と呼ぶのであろう。

また、すみだリバーウォークを歩いた先には、隅田公園があり、オープンカフェが数店舗出店しておられ、市民の憩いの場所として、老若男女問わず支持を受ける人気の公園が整備されている途中であった。これも大いに参考にしたい。

犬山市への提言

今回の隅田川の視察において、河畔の整備・活用をいかに「美しい河川空間」としての整備につなげるかを、かわまちづくりの計画策定の段階からしっかり進めなくてはならないと考えさせられた。

9月定例議会で補正議決した木曾川河畔活性化事業支援に期待するところは大きい。地元住民に事業の有効性と意義を理解していただき、ともに推進することが、実現には不可欠であるが、そればかりに注力すると、まったく面白くないものになってしまうのは目に見えている。事業を進める上での雰囲気づくりには、市長または誰かの・・・まちづくりの魅力や意義を発信して推進できるリーダーシップが求められる。

また、隅田川の事業成功のカギは、河川管理者と川まちづくりの主体がどちらも東京都であるということである。犬山市においても、木曾川河川空間の活性化は環境課、経済環境部だけでは進まないため、犬山市役所の横断的な協力プロジェクトが必要であり、河川管理者である国交省との信頼関係が必要不可欠であると考えられる。